

実践報告

札幌市立東栄中学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験学習」

- 多様性を受け入れ、自他を尊重する心を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】「アイヌの人たちの生活と文化」について

○ねらい

- ・ アイヌ文化に直接触れることでアイヌの人々の生活文化を知るきっかけとし、関心を高める。

○学習内容

- ・ マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会 多原良子氏によるアイヌ民族の歴史などの講話



- ・ マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会の方々によるトンコリ演奏・民族舞踊の演舞



- ・ 生徒の民族舞踊演舞体験 保存会の方々と生徒（各グループ 50 名程度）のトークセッション



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 事前調査では、アイヌ民族の文化に直接触れる体験をしたことがあると回答した生徒が全体の 10%程度であったが、今回の学習によって、より多くの生徒が実際にアイヌ文化に触れることができた。
- ・ 今回は、アイヌ民族の大まかな歴史について事前に学習していたこともあり、当日のトークセッションでは各グループとも積極的に質問が出て、アイヌ民族への関心が非常に高まった。

② 課題

- ・ 生徒は直接的な体験に乏しく、「自分の目で見ると」ことの大切さを知る機会が少ないことから、今後もこうした場を幅広く設定していく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 「代表の方のお話」から「民族楽器の演奏」、「民族舞踊の演舞」から「生徒の演舞体験及びグループでのトークセッション」というように、見聞きする場面と体験する場面を組み合わせた学習展開は、多様性を受け入れ、自他を尊重する心を育む上で有効であると考えます。